

「こおりやまの米」通信

「湖南版」

平成26年7月4日



郡山市
イメージキャラクター
「かくとくん」

Vol.6

次号は7月中旬(穂肥等)

編集:郡山市

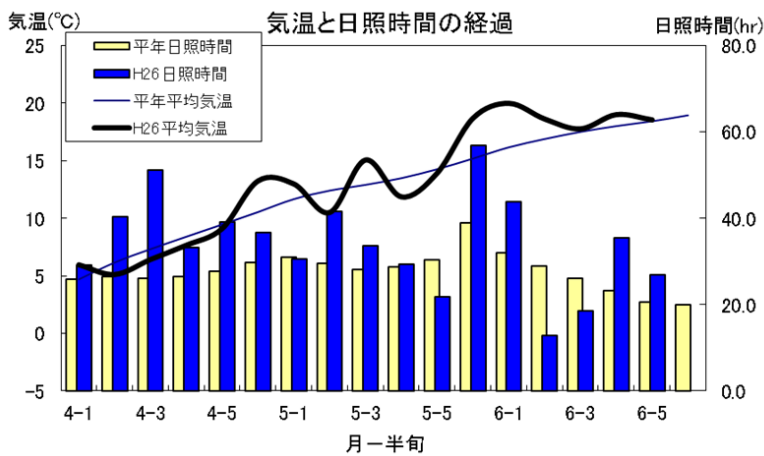
JA 郡山市 (Tel. 921-0724)

NOSAI 郡山田村 (Tel. 933-3307)

県中農林事務所農業振興普及部 (Tel. 935-1310)

発行:郡山市農作物生産対策協議会(郡山市農業振興課 Tel. 924-3761)

*最新号はJA各支店窓口にならえつけてあります



7月4日 生育調査結果

品種 (調査地点)	年次	草丈 (cm)	茎数(本)	
			株あたり	m ² あたり
あきたこまち (湖南)	本年	39.7	26.2	500
	平年比(%・差)	97	138	138

1 生育概況

7月4日の生育調査では平年に比べ、草丈はやや短く、茎数は多い状況です。葉色は平年並で、生育は2日程度進んでいます。平坦部の天のつぶ、ひとめぼれでは幼穂が確認されています。

2 天気予報

＜東北地方 1か月予報＞(7月3日 仙台管区气象台発表)

平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。平均気温は、高い確率が50%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。

＜東北地方 3か月予報＞(6月25日 仙台管区气象台発表)

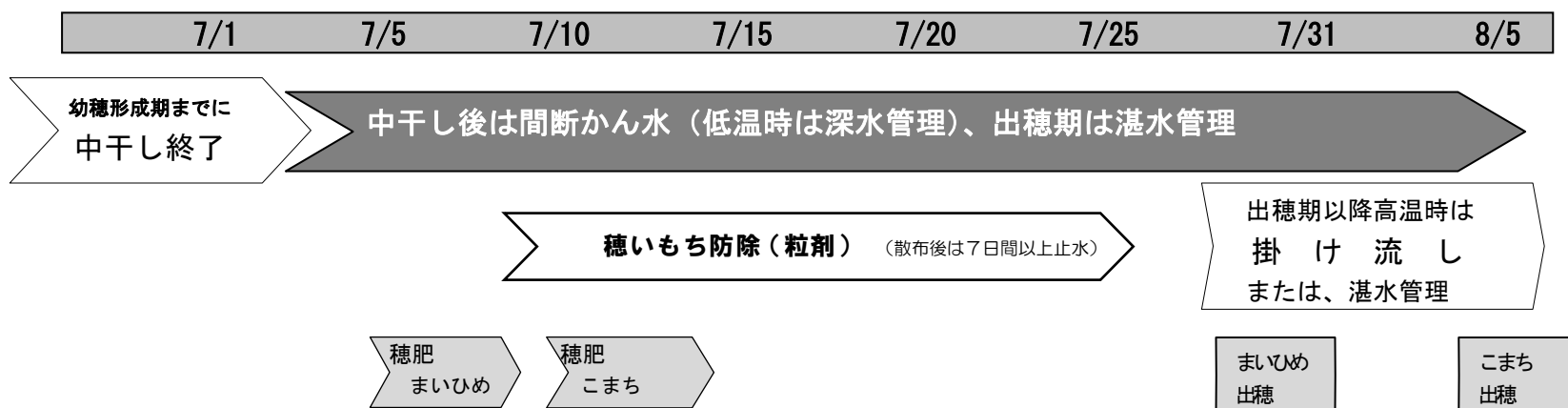
8月 天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は、高い確率、低い確率ともに30%です。

降水量は、平年並の確率が30%、多い確率が40%です。

9月 平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。気温は、高い確率、低い確率ともに30%です。

3 作業の目安 (管内主要品種の予想値です。ほ場ごとに生育を確認し作業日程を決めて下さい。)

幼穂形成始期	高冷地	あきたこまち: 7/11	まいひめ: 7/7
出穂期	高冷地	あきたこまち: 8/5	まいひめ: 8/1



4 水管理

(1) 中干し後は、間断かん水により根を健全に保ちましょう。低温の恐れがある場合は深水にしましょう。

(2) 出穂期以降に高温が続く場合はできるだけ掛け流しとし、水田の水温・地温を下げ根の活力を維持しましょう。

5 カメムシ類対策 **！カメムシ注意報が発令されました！乳熟期の防除は必ず実施しましょう！**

- (1) 1回目の防除：粉剤、液剤等による防除は、乳熟期（出穂期※1の7～10日後）を基本とします。
 粒剤を使用する場合は、穂揃期～乳熟期に湛水状態で散布します。（※1 出穂期：ほ場の約半分が出穂した時期）
- (2) 追加防除：その後も発生が見られる場合は、7日おきに追加防除を行いましょ。割れ粃はカメムシによる吸汁を助長します。割れ粃の発生しやすい品種（まいひめ、あきたこまち、天のつぶ）では、出穂20日後頃の追加散布が重要ですので、乳熟期と出穂20日後の2回散布を基本にしましょう。

薬剤名	使用量	使用回数	使用時期
MR. ジョーカー粉剤 DL *	3～4kg/10a	2回	収穫7日前まで
スタークル液剤 10 *	1000倍、60～150L/10a	合わせて3回まで	
スタークル粒剤	3kg/10a		

* 蚕に対する毒性の強い農薬であり、使用規制地域を確認のうえ使用しましょう。

※使用回数については、無人ヘリ防除等による使用農薬もカウントされますので、使用回数を超えないようにご注意ください。
 ※カメムシに効果のある薬剤はミツバチなどの有用昆虫に対し長期間影響のある薬剤があるため、養蜂業者（所有者不明の場合は県中家畜保健衛生所 TEL923-1661）との連絡を密にし、事故のないようにしましょう。

6 穂肥（出穂25日前の生育状況で判断します。）

穂肥のチッソ成分2kgの目安（10aあたり）

- (1) あきたこまち、まいひめ、ひとめぼれは、出穂25日前にチッソ成分2kg/10aを基本とします。
 有機質肥料の場合は、ゆっくり効くので、5日程度早く施用しましょう。

肥料銘柄	N-P-K	効き方	施用量
NKC6号	17-0-17	早い	12kg
IB4号	15-4-15	ややゆっくり	13kg
こおりやま2号 (有機入り)	10-2-10	ゆっくり (5日早く施用)	20kg

- (2) 幼穂長による出穂前日数の判定
 (出穂期は天候により変化しますので幼穂長を確認しましょう)

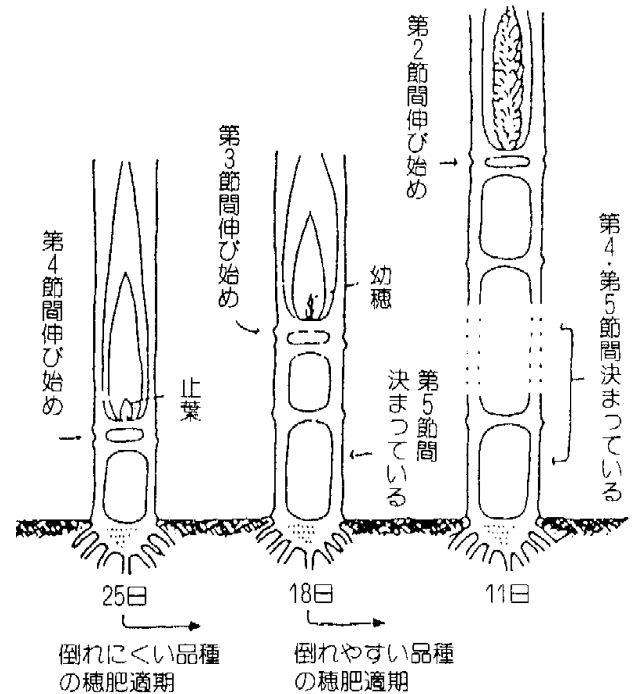
幼穂長	出穂前日数	備考
1.0mm	25日	幼穂形成始期
2.0mm	20日	
8.0-15.0mm	18日	
40.0-60.0mm	14日	
80.0mm	12日	減数分裂期

- (3) 出穂25日前に生育を確認し、草丈が長く葉色の濃いほ場は、穂肥の量を減らすか時期を少し遅らせましょう。
 また、出穂5日前以降の実肥は、玄米タンパク質が高まり食味が低下するので行わないようにしましょう。

出穂25日前の生育の目安

品種	草丈	葉色
あきたこまち	55～60cm	3.5～4.0
ひとめぼれ	60～65cm	3.5～4.0

- (4) 基肥一発の場合は、原則として穂肥は行いません。適正な穂肥を実施し、倒伏による放射性物質汚染を防ぎましょう。



7 いもち病対策

いもち病に感染しやすい気象条件となっています。感染の危険が高まっていますので注意してください。

- (1) 早期発見・早期防除につとめ、葉いもちの病斑を発見したらすぐに液剤や粉剤等で防除しましょう。
 (2) 粒剤で穂いもち予防する場合は、下記薬剤等を散布しましょう。（湛水状態で散布し7日間以上止水）

コラトップ粒剤5 出穂15～10日前 3～4kg/10a

フジワン粒剤 出穂30～10日前 3～5kg/10a

この資料は、平成26年6月25日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

※安全な農作業の実施に御協力ください※

- ・農薬はラベルの表示に従い、周囲への飛散に注意して適切に使用しましょう！
- ・農作業死亡事故が多発しています！計画を立て、余裕を持って作業しましょう！
- ・土手や畦畔でのたき火による火災には十分に注意しましょう！